

交換留学報告書

派遣先	
三重大学での所属学部・研究科	人文学部文化学科
学年(出発時)	2年
大学名	梨花女子大学
国	大韓民国
留学期間	2学期(10ヶ月)2022.08.21~2023.06.26
派遣先での身分	学部生
一日の生活スケジュール(通学時)	
	記入欄
8:00	
9:00	
10:00	授業
11:00	授業
12:00	昼食
13:00	授業
14:00	授業
15:00	図書館で自習
16:00	
17:00	
18:00	
19:00	夕食
20:00	友人と過ごす
21:00	
22:00	帰宅
23:00	課題・復習
0:00	

履修科目				
科目名	時間数/週	履修単位	使用言語	授業内容(レポート、試験、授業形態等)
日本社会文化史	75分 ×週2回	3	韓国語	講義型授業、試験は中間・期末あり。グループワークがあり、学期末に成果物を発表。私は試験の代わりにレポートを提出しました。
日本語コミュニケーション	75分 ×週2回	3	日本語 韓国語	日本人の先生のもと、日本語の文法について学びながら日本文化に触れた。講義の時間より、グループで話し合う時間の方が多かった。日本人学生と韓国学生との割合は半々で、日本語や日本に関する質問を受けたときは、韓国語で説明していた。試験はなく、期末レポートを提出。
日本言語と文化	75分 ×週2回	3	韓国語	講義型授業。試験は中間・期末あり。授業中のグループワークが多かった。授業内容は日本語についてであるが、韓国語で進行されるため、様々な韓国語表現が身に着いた。
韓国文化の深読み	オンデマンド 授業	3	韓国語	韓国の文学に関して学ぶ。試験は中間・期末あり。課題も試験の時期に合わせて、2度提出。歴史と文学を融合した授業内容であった。
ドラマで学ぶ 日本歴史と文化	75分 ×週2回	3	日本語 韓国語	日本人の先生のもと、日本の有名な作品の登場するシーンを引用して、日本の歴史について学習した。韓国学生がほとんどであるため、授業内容を説明するときはほとんど韓国語を使用した。試験はなし。期末課題とグループ発表があり。
韓国史と想像力、 ストーリーテリング	75分 ×週2回	3	韓国語	講義型授業。韓国の時代劇を通して、韓国史を見つめ直す。試験は中間・期末あり。学期末に課題あり。課題の内容を発表。(申請者のみ)
人間行為と社会構造	オンデマンド 授業	3	韓国語	社会学の様々な概念と人間の行為を通して、社会構造に関して学習する。試験は中間・期末あり。課題も試験の時期に合わせて、2度提出。

大学のサポート	
チューターの有無	あり
チューターのサポート内容	キャンパス案内、週に一度にグループで昼食
語学コースの有無	基本的になし。必要に応じて受講可能。
コース名、料金、期間等	
生活	
住居のタイプ	寄宿舍
住居の名前	国際留学生寮 1-HOUSE
部屋タイプ	2 人部屋
ルームメイト(国籍)	ドイツ
室内設備	ベッド、机、棚、シャワーとトイレは共同使用
共用施設	各階に食事スペースがあり、浄水器、電子レンジ、机など完備
インターネット設備	全棟 Wifi 完備
大学までの交通手段(交通機関、所要時間)	寄宿舍が学内にあるため徒歩通学
アルバイトの有無	あり
アルバイトの内容	広告代理店でマーケティング、事務補助

渡航	
Visa の種類	D-2
Visa 申請先	駐名古屋大韓民国総領事館
Visa 取得にかかった日数	約 2 週間
Visa 取得にかかった費用	無料

Visa 取得方法、提出書類等	<p>駐名古屋大韓民国総領事館にて D-2ビザを申請</p> <ul style="list-style-type: none"> ・査証発給申請書(指定様式) ・写真 1 枚(カラー、3.5x4.5cm、6ヶ月以内に撮影したもの、申請書の写真欄に貼り付けて提出) ・パスポート(残存期間:申請日より6ヶ月以上)原本 ・パスポートのコピー(写真ページ見開き一枚) ・住民票(原本)または運転免許証、マイナンバーカードなど公的身分証明書とそのコピー(両面)*保険証は不可 ・標準入学許可証(コピー可、有効期限:発行日より3ヶ月以内、出生国家・本人署名欄などを必ず記載) ・韓国の大学の事業者登録証(コピー可)
留学先大学の最寄り空港までの経路	<ul style="list-style-type: none"> ・中部国際空港から仁川国際空港まで飛行機で約 2 時間 ・仁川国際空港第一ターミナルから梨花女子大学最寄り駅までバスで約 1 時間 ・最寄り駅より大学まで徒歩 5 分
渡航費用	片道約 45000 円(荷物追加、高速バス代込)
ピックアップサービスの有無	なし
帰国後	
留年や卒業の遅れの有無	現在のところ、なし
有る場合、その理由	
就職活動開始時期	大学院進学のためなし
帰国後の進路	韓国の大学院
留学にかかった費用	
現地通貨 = 日本円(約)	100 円 = 90W
保険料(海外旅行保険、国民健康保険等)	約 10 万円
学費(教科書代や語学コース授業料等)	三重大に納付
宿舍費(月額)	約 4 万 5 千円
光熱費(月額)	宿舍費に含む
食費(月額)	約 5 万円
その他	約 50 万円
留学期間中にかかった費用の合計	約 150 万円

感想等(※800字以上で語学勉強の成果についての内容も含め、ご記入ください。)

幼少期から家族の影響でずっと韓国の文化に触れて育った私は、自然と将来は韓国に住むというビジョンがあった。しかし、どれだけ韓国の文化や歴史が好きであっても、これまで日本で育ってきたため、実際に住んでみないとわからないことが沢山あると感じていた。また、留学前から韓国での大学院進学・就職を考えていたため、今回の留学を通して再度ゆっくり考える機会にした。

今回は10カ月という長いようで短い限られた時間の間で、やりたいことや目標が沢山あった。またありがたいことに、全てやり遂げることができた。これは自分の努力はもちろん必要であるが、家族、韓国で支えてくれる友だち、国際交流チームの方々のおかげだと感じている。交換留学というのは、正規学生に比べて非常に時間があり、過ごし方は人それぞれである。しかし、時間の使い方次第では非常に学びのある有意義な時間を過ごせることが可能である。海外で知り合いが誰もいないところに飛び込むのは容易ではない。しかし、一歩踏み出せば得られる経験は今後の自分を助けてくれる大きな財産になっていると考える。

留学中に何度かボランティアに参加した。国際交流イベントの運営やゴミ集めに参加した。インターネットを通して志願をし、周りが大人ばかりで非常に緊張したが外国人である私を快く歓迎してくださり、ご飯やカフェなどをごちそうになった。また、私は将来韓国の放送局に就職したいということ話をすると、KBSで働いていた方を紹介していただき、現場のお話を直接聞くことができた。ボランティアに参加するというを通して、それ以上のことを得られるという環境が非常に幸せであった。

今回の留学では全て正規学生が履修する授業を選択したため、ネイティブレベルの韓国語が常に求められるという環境であった。知識があっても、それを韓国語で説明をしたり、発表したりするというのが留学当初はやはり躊躇していた部分があった。しかし、クラスの雰囲気のおかげで自然と意見を伝えることができるようになった。グループ発表でも、4人で1グループ、2人1グループなど多様であったが、どのグループでも私以外はみんな韓国人の学生であった。しかし、自分が外国人であることを忘れてしまうほど受け入れてくれた梨花女子大学の学生さんたちのおかげで、楽しみながらグループ発表を行うことができた。そこでも韓国語で発表したため、挑戦であったがグループのメンバーに支えてもらい、やり遂げることができた。また、最後の学期には一人で10分ほど発表を行った。「韓国史と想像力、ストーリーテリング」という授業で、私以外全員韓国人正規学生が100名ほどであり、外国人は私1人だけであった。韓国の時代劇と歴史を踏まえて、韓国の現代社会に関して疑問に思っていたことをテーマに発表を行った。発表は申請すれば行うという方式であったが、1人で100人を前に韓国語で話すという貴重な経験を何としてでもやり遂げたいという一心で申請をした。しかし、語学的な問題より外国人である私が出しゃばりすぎているか、やはり不安であった。しかし、発表後に掲示板にたくさんの学生が感想を書いてくれて、その内容を読み、勇気を出して申請してよかったと改めて感じる事ができた。

試験はもちろん韓国語で受けるため、簡単に超えられるような壁ではなかった。しかし、試験期間中に図書館に籠り、徹夜して勉強したり、休憩時には友だちと話をしたりと、日本ではなかなか経験することのできないことばかりであった。また、勉強した分テストの点数に反映されるので最後まで諦めずやり遂げた。

交換留学生という身分上、どこか正規学生との距離を感じてしまう場面がある。また「外国人」というレッテルは、一生切り離すことができないかもしれない。しかし、今回の留学を通して本気で心から接すれば見てくれる人、助けてくれる人、理解してくれる人は必ずいるということをもっと体験した。

また、今回韓国の会社でアルバイトを行った。アプリで応募し、面接を行った。韓国の広告代理店で日本市場のマーケティング、翻訳など様々な業務を経験することができた。業務内容は日本語がほとんどであるが、会社の方々ややり取りをする際には韓国語であるため、ビジネス日本語と韓国語を同時に習得する非常にいい機会であった。サービス業とはまた違った業種であるため、慣れるまでは難しいことも沢山あったが、一緒に働く方々に恵まれてすぐに慣れることができた。

前述の通り、正規学生が履修する授業を選択したため、韓国人の友だちと過ごす時間が圧倒的に長かった。授業を通して出会った友だちたちは、友だちというより韓国に新しい家族ができたような存在であった。明るく常に前向きな友だちたちの影響を受け、自分の性格も変化したと感じる。

今回の留学を通して、たくさんの人の支えがあったおかげで、様々な挑戦をすることができた。帰国後も大学院進学に向けて、これからも挑戦が続いていくが今回の留学で学んだことを活かしながら、頑張っていきたいと思う。

今後留学する人へのアドバイス

韓国は遠慮したら負け、言ったもん勝ちというような社会なので、迷ったらとりあえず飛び込んでみるとなんとかなります。もちろん語学的な面で必要なこともあるかもしれませんが、‘とりあえず’動いてみなければ、何も始まりません。私も何度も国際交流チームへ電話をしたり、事務所へ直接訪ねたりしました。そのおかげで私を覚えていただき、国際交流チームの方より日本語の翻訳依頼を受けたこともありました。また、アルバイトのために就労許可申請をインターネットで申請をしたのですが、なかなか処理がされないため、外国人事務所に訪問をして問い合わせをしました。最終的には、担当の方へ直接電話をして早めに処理をしてもらうことになり、無事申請が許可されたということもありました。外国人である以上、不都合な場面もありますが、意外になんとかかなります。本当に韓国語が使えて良かったと感じました。人としての礼儀は守りつつ、厚かましいほど食らいついていくぐらいで丁度いいと思います…笑

また、交換留学の間、自分と向き合う時間が沢山あると思います。自分の思っていたような留学生活ではなく、辛いこともあるかもしれませんが、その経験を通して自分の好きなこと、やりたいこと等、自分の新しい一面に出会えるかもしれません。自分と相談しながら、無理のない範囲でいろんな挑戦をしてみてください！思っていた以上に、自分ってこんなことが得意で好きなんだって気づけるとと思います。楽しいこと、辛いことは日本にいても起きると思うので、海外でこんな経験ができて寧ろラッキーと感じられるようになるはずです。体に気をつけて、満足のいく留学生活が送れることを祈っています。)

報告書記入日

2023.06.28